

# 中日接触場面における話題転換の研究

楊 虹

学位取得年月：平成 21 年 3 月  
取得学位名：人文科学博士  
学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】 話題開始、 話題終了、 協働的、 相互行為、 中国人学習者、 初対面会話  
【要旨】

本研究は、中日接触場面の話題転換を解明し、中国人日本語学習者を対象とした会話教育への示唆を得ることを目的として行われた。相互行為の社会言語学の理論的枠組みを用いて、中日接触場面 (32 組) および日本語母語場面 (18 組)、中国語母語場面 (18 組) という三つの初対面場面の二者間会話における話題転換の分析を行い、中国人学習者の話題転換の問題点及び中国語母語場面の話題転換のスタイルの影響を明らかにした。

分析の結果、日本語母語場面では、話題開始については、①先行話題または発話との関連のある派生型話題が最も一般的、②ほとんどの話題導入発話に談話標識がみられ、日本語母語話者は談話標識を用いて会話の流れや対人関係に配慮を示す、③話題開始のプロセスは、即時的開始と漸次的開始が半々であり、話題導入発話に用いられる表現や、話題間のつながりなどに応じて、話題開始は会話参加者同士の交渉によって遂行される、といった特徴がみられた。また、話題終了については、①相づちやまとめ・評価表現を用いて、話題終了の意思表示が必要、②話題終了のプロセスは参加者間で合意を示しあいながら徐々に話題を終了する漸次的終了が基本的なパターン、といった特徴が明らかになった。

中日接触場面では、話題開始については、①先行話題となんの関連もない新出型話題の割合が増える、②談話標識の使用頻度が低くなる、③意味交渉が増えた結果話題開始のプロセスが長くなる、など日本語母語場面と異なる特徴がみられた。また、①と②は中国人学習者においてより顕著にみられた。話題終了については、①中国人学習者と日本語母語話者の話題終了行動に違いがみられ、日本語母語話者の場合、話題終了行動を用いることが一般的であったのに対し、中国人学習者の場合、話題終了行動の生起は随意的であった。②話題終了のプロセスでは、漸次的終了と即時的終了の割合が拮抗し、日本語母語場面のみみられた基本的なパターンがみられなかった。

中国語母語場面では、話題開始については、①新出型話題の導入は日本語母語場面より多い、②談話標識の使用頻度は日本語母語場面より低い、③話題開始のプロセスは、即時的開始が大半である、など日本語母語場面とは異なる特徴がみられた。話題終了については、①話題終了行動の使用は必須ではない、②話題終了のプロセスに基本的なパターンがみられず、即時的終了が多く見られる、といった日本語母語場面とは異なる特徴が明らかになった。

以上の結果から、中国人学習者の話題転換行動は日本語母語話者とは異なることが明らかになり、その原因としては、日本語能力の不足のほか、中国語母語場面の会話のスタイルからの影響も大きいことが挙げられる。本研究で得られた知見から、学習者に対する話題転換教育について、以下の 2 点について検討する必要性が示唆された。1 点目は、話題開始に用いられる談話標識の提示のし方である。従来、話題転換表現として明示的な接続表現のみが目されてきたが、導入される話題のタイプ、相手との距離、会話の場などに応じて適切に使用できるよう指導することが必要である。2 点目は、話題終了についてである。これまでの話題転換に関する会話教育においては、話題終了にはあまり注意が払われてこなかったが、唐突な印象を与える学習者の話題転換の多くは話題終了行動の欠如によるものであるため、相づちやまとめ・評価表現等の話題終了行動の役割を学習者に提示し、認識させることが重要であると考えられる。日本語教育に従事する者に対しては、学習者の母語の会話のスタイルを把握した上で、会話教育を行うことの重要性も示唆された。

(やん ほん)